



平成 27 年度
ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ
実施報告書



日産労連
NPO 法人 日産労連 NPO センター「ゆうらいふ 21」
公益財団法人 国際障害者年記念ナイスハート基金

目 次

はじめに	1
実施概要	2
スケジュール in さっぽろ /in ふくしま	3
ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い 庄崎 隆志	4
ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い メイミ	9
プログラム概要 in さっぽろ（7月30日）	14
参加者の感想	15
プログラム概要 in さっぽろ（7月31日）	16
参加者の感想	17
プログラム概要 in ふくしま（9月17日）	18
参加者の感想	20
プログラム概要 in ふくしま（9月18日）	23
参加者の感想	25
プログラム概要 in ふくしま（9月19日）	32
ふくしまでの取組から～特別支援学校の現状 福島県立須賀川養護学校 学校長 鹿目敦子	33
新聞記事	35
特定寄付金協力謝礼	38
編集後記	39

はじめに

東日本大震災では多くの組合員とその家族も被災し、日常生活が困難な状況に追い込まれました。特に福島県は原発の事故により屋外での生活が大きく制限され、子ども達は随分と窮屈な生活を余儀なくされてしまいました。

この様な中、日産労連では過去よりハンデキャップのある子供達への支援を様々な形で実践して来ましたので、福島県の子どもたちに焦点をあて「障がい児と家族のための、わくわくファミリーキャンプ」を2012年7月に神奈川県三浦海岸へ招待し開催しました。当日は季節外れの低温に震えながら、それでも安心して海に入れると、子どもたちは海遊びに夢中になっていました。そして2013年9月、2014年10月と連続して富士山麓の御殿場で「しょうがい児と家族のためのふくしまっこキャンプ」を開催しました。子どもたちは放射線量の高い福島で、葉っぱやどんぐり等容易に触れられない中、御殿場の自然を安心して満喫する事が出来ました。また車イスでの参加者からは「遠出となると困難な事（トイレやお風呂等）があり参加し難かったけれど、皆さんに支えられ家族と一緒にたくさんの体験と交流の場を共有する事が出来ました」と大変喜ばれました。しかし一方では福島からの8時間のバス移動は参加者の負担も大きい事から今回、プログラムを変更し「ノンバーバルワークショップ in ふくしま」として福島県内での実施となりました。

言葉を使わないコミュニケーション・ワークショップは日産労連として初めての取り組みでもあり、戸惑い、手探り状態のスタートとなりました。それでも非日常の体験を通して「相手の気持ちを感じ取ろうとする感性」を高める訓練になったと実感しています。今回の活動を通して得たものは他にも多くありますので、しっかりと総括をし、来年の実施に向けて始動していきたいと考えております。

平成27年10月

山口 明

NPO 法人日産労連 NPO センター「ゆうらいふ21」
専務理事



実 施 概 要

ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in さっぽろ

1. 目 的 ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて、各ファシリテーターの個性的な取組を体験していただきながら、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について考える場とするために開催致します。
 2. 日 時 平成27年7月30日（木）～7月31日（金）
 3. 場 所 札幌市東区民センター2階大ホール
 4. 主 催 日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
 5. 共 催 NPO法人自立支援センター歩歩路 / 東区障害者自立支援ネットワーク
 6. 後 援 札幌市自立支援協議会東区地域部会（7月31日）
社会福祉法人札幌市東区社会福祉協議会（7月31日）
-

ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in ふくしま

1. 目 的 東日本大震災後の福島の子どもたちへの取組として、「ふくしまっこキャンプ」と題した活動を平成24年度から続けてまいりました。今年は、福島県内の各養護学校中心に、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について、ノンバーバル（非言語）という手法を用い、楽しみながら体験していただくために開催致します。
2. 日 時 平成27年9月17日（木）～9月19日（土）
3. 場 所 福島県内各養護学校他
4. 主 催 日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
5. 後 援 福島県教育委員会

～スケジュール～

in さっぽろ

1日目 (7/30)

- 15:00 ワークショップ開始
15:15 メイミさん
早着替え&即興ポーズ
15:30 庄崎隆志さん
即興パフォーマンス
15:45 庄崎隆志さん & メイミさん
ボディパフォーマンス
16:00 ハイタッチで終了

2日目 (7/31)

- 13:00 開演の挨拶
ハイタッチで開始
13:25 メイミさん
早着替え & ボディリズムミカル
13:55 庄崎隆志さん & メイミさん
即興パフォーマンス
グループワークショップ
14:35 各グループ発表
14:55 庄崎隆志さん
チェロマイム「うみのせかい」合唱
16:15 閉会挨拶

in ふくしま

1日目 (9/17)

- 09:30 福島県立須賀川養護学校郡山分校
10:00 ワークショップ開始・挨拶
10:10 メイミさん※早着替え
10:25 庄崎隆志さん
※カメラパフォーマンス
10:45 庄崎隆志さん & メイミさん
※ミラーリング
10:55 記念品贈呈→終了
12:30 福島県立須賀川養護学校
13:00 ワークショップ開始・挨拶
13:05 メイミさん
※早着替え
13:25 庄崎隆志さん
※なわとびパフォーマンス
13:45 庄崎隆志さん & メイミさん
※肩たたき
13:55 記念品贈呈→終了

2日目 (9/18)

- 9:30 福島県立いわき養護学校集合
10:35 ワークショップ開始・紹介
日産労連高倉会長挨拶
10:40 メイミさん※「かがみ」をテーマに即興ポーズ
10:55 庄崎隆志さん※カメラパフォーマンス
11:05 庄崎隆志さん & メイミさん※なわとび
11:30 記念品贈呈→終了
13:00 福島県立いわき養護学校くぼた校
※福島県立勿来高等学校
13:15 ワークショップ開始
13:30 メイミさん
※早着替え
13:45 庄崎隆志さん
※カメラパフォーマンス
14:15 グループワーク
※グループ名「四季」の創作
14:55 グループワーク発表
15:20 記念品贈呈→終了

3日目 (9/19)

- 13:15 福島県立医科大学付属病
14:00 ワークショップ開始・紹介
14:10 メイミさん※早着替え / 庄崎隆志さん※力比べ
14:35 庄崎隆志さん & メイミさん※身体パフォーマンス
14:55 記念品贈呈→終了

ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い



庄崎 隆志

Takashi Shozaki

日産労連の皆さん、国際障害者年記念ナイスハート基金の皆さん、スタッフの皆さん、メイミさんに支えていただき、札幌・福島でのワークショップはどれも充実した中身になりました。今回もワークショップファシリテーターとして関わることが出来、とても嬉しい限りです。感謝申し上げます。

私の立場は、ノンバーバルコミュニケーションワークショップファシリテーターですが、更に聞こえない演劇人という珍しい立場もあります。一般的に、ノンバーバルコミュニケーションを知る機会はとても少なく、何人かは、聞こえない人と出会うのも初めてであったと思います。

私のワークショップの進行方法としては、準備されたものはまったく無しで、その場で閃いた



ものを表現することの新鮮さを体験してもらう意図があります。参加者の皆さん自身が「ありのままの自分」をベースに「今日の自分」を感じ合ってもらいたいし、お互いに受けとめ合うというのも目的の一つにあります。

札幌・福島でのそれぞれのワークショップは、そういう意味で、「完全なプログラム」ではなく、参加者の皆さんのその時の様子やメンバー構成により、みんなが臨機応変にふれ合うことができ、大切な時間となったのではないかと思います。

また、もう一人のファシリテーターのメイミさんとのコンビネーションにより、私も新鮮な視点を実感することが出来ました。メイミさんの皆さんと向き合う姿を見ているとその場が、“心も体も”ほかほかで楽しい雰囲気にならずに少しずつ変化していき、とても良い刺激になりました。道なき道を切り開いていくように感じました。



札幌二回・福島五ヶ所のワークショップの参加者は、障害をもった子どもや大人と、障害をもたない子どもや大人は半々だったように思います。また、のべ50人～100人近くの参加があったかと思います。どのワークショップも、開始前から期待の熱気が溢れていました。いつも思うことですが、私は、ワークショップ開始を待つ会場全体の緊張感がなんとも心地よく、気持ちも高まります。その熱気に自分が応えられるかどうかという緊張感は勿論、終わったときに、このワークショップの醍醐味である、参加者が「言葉を使わなくても」ふれ合えるのだという感じを得られるよう魅力的な空間にしなければと、気合いが入り



ます。

ワークショップを始める前には、円に並んだ椅子に座る皆さんの様子を見ます。障害の有無にかかわらず、参加者の皆さん全ての色々な事情を考慮しつつ、どのようにしたら一緒に楽しく参加できるかを考えることが大切です。

ようやく始まると、まずお互いを知るために「アイスブレイク」をします。相手に、両手でハイタッチしてあげるといいます。相手と目を合わせながら「はい、タッチするよ」と身振りで伝えると相手が「いいよ」とサインを出します。相手によって、ハグしたり、動きをオーバーにしたり、全身を使って大きな喜びの表現を交わしながらワークショップを始めることが大切です。これは、参加者全員が友達になるためのもので、ノンバーバルコミュニケーションの原点です。ここで掴めば、今日の目的は果たせたと思うほど、重要な導入です。

【ワークショップの内容】

○参加者一人ひとりとハイタッチ（庄崎・メイミ）

○緊張ほぐす手のウォームアップ～「手拍子」「グーとパー」「壁ドン」等（庄崎）

○「鏡」即興マイム～メイミの動きをコピーする（メイミ）

○「自由」即興ボディリズム～メイミの動きを真似して参加者全員が「復唱」する（メイミ）

○架空のボールによるアクティビティ（庄崎）

○エアー縄跳びによるアクティビティ～1人・2人・3人・10～15人、最後は全員で大きな縄



跳び（庄崎）

○「四季」～グループで季節をサイレントで表現する。発表を目指して、沈黙劇を創る。打ち合わせをする時は筆談は可能だが言葉や手話を使わない。（庄崎・メイミ）

○その他

ワークショップを終えて、印象的だったことは本当にたくさんありました、ここでは、特に印象的だったことを記します。一般に重度と言われていらっしゃる障がいの方も、自分を解放することで、豊かなパフォーマンスができることを確信できたということでした。身体の温度調整の困難な車椅子の方と一緒にコラボレーションしたパフォーマンス【海のオーケストラ】は、私自身初めての経験だし、自分の想像力の狭さを痛感しつつ、可能性にわくわくしました。障がいのある方（ない方も）ともっともっと関わりたいと思いました。ノンバーバルコミュニケーションの可能性を広げるヒントをもらえました。札幌ワークショップでは車椅子の方がたくさん参加してくださって、皆さんの生き生きとした表現が見られ、また観客の皆さんが素直に受け入れていることも、すごく心地よいと思いました。これまでの身体表現の手段では、扱ったことが全くありませんでした。

思い起こせば2012年5月、「国際障害者年記念ナイスハート基金東日本大震災支援ワークショップを福島で行う計画を立てましたので、庄崎さんも来てください」と言われた時、自分も何





か支援できればと思いながら受けました。私のような仕事の者は直接的な支援ができるとはいいがたく、そこに無力さを感じつつ福島県沿岸に挑みました。それから毎年色々学んでこれましたし、障害をもった人ともたない人とで強く連帯感を持ちたいと考えながらやってきました。

東日本大震災への支援に始まった企画は、続けることで一步步前進し、大きな変化の流れ生おのだろうと感じていましたが、今年は特に強く実感できました。

これからも、多様な人たちが参加しかかわり合う場で、その多様性をどう活かしていくのが私の課題です。



庄崎隆志

office 風の器主宰・俳優・演出家。

19歳で裏方のアルバイトのつもりで入ったプロフェッショナル劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」で思いがけず役を貰い、俳優に。演出・脚本も手がける。国内で2000回以上、また海外13カ国で公演の経験を持つ。2005年の退団後は公演プロデュース、また実践女子短大をはじめ様々な教育の場や国立特別支援教育総合研究所等でワークショップの講師としても活躍。映画『ゆずり葉』（全日本ろうあ連盟製作）主演。著書に「障害者と福祉文化」（第8巻・明石書店）他。2010年「第59回横浜文化賞文化・芸術奨励賞」受賞。

ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い

メイミ

Meimi



ノンバーバル・コミュニケーションを通して 相互の学びがある場

札幌2回、福島5回の計7回のワークショップの中で、私自身少しずつ変化していくのが分かりました。

ノンバーバルでいかに参加者とコミュニケーションを取っていくのかという工夫を加える作業は、修正や状況に応じての調整であったり少しずつ作り上げていくものでした。それは参加者と共にファシリテーターの二人もワークショップを通じて学ばせていただく相互学習の場であり、本来のワークショップとはこうであると実感しました。お互いが対等



な立場で共に向上していく場でした。

では、どのような工夫が加えられていったのか具体的なお話をしたいと思います。

札幌では、ファシリテーターの二人で事前に打ち合わせをしました。1時間と2時間のワークショップがあり、それぞれどのような構成でどんなことをしようかと細かな打ち合わせをしています。そして、普段は漫談芸と比較的おしゃべりで舞台に立つことが多い私にとっては、完全にノンバーバルで進行すること自体が初めての試みであり、前例がない為、参加者はもちろん自分自身もどのような反応を示すのか未知の世界でした。

そして迎えた第1回目。思うようにいかずあたふたしてしまい、共にファシリテーターを務める庄崎さんに大変助けられたのを覚えています。

日頃、1対大勢を対象にパフォーマンスすることがほとんどですが、同じ感覚ではこのワークショップは上手くいかないということが分かりました。もちろんお客様に参加していただくものもありますが、どれもが言葉での説明に頼っているということがよく分かりました。ワークショップは1対大勢ではなく、1対1の集合であり、ファシリテーター対参加者、参加者対参加者、それが繋がっていくことで全体でのコミュニケーションになっていく感じがしました。

そんな訳で、2回目以降は個々のやりとりも取り入れながら、体の動き、表情、スキンシップを使って密なコミュニケーションを行っていくというスタイルへと変化しました。更には、積極的な子ばかりでなく、自ら前に出れなかったり、あまり動けない子たちもピックアップすることで、誰もが



分け隔てなく参加できるコミュニケーションの場作りを行っていきました。これはファシリテーターの庄崎さんや参加者の皆さんから学びながら工夫を加えていったものです。

いつも新鮮！

ドラマが生まれるワークショップ

さて、次に訪れた福島5箇所のワークショップでは更に変化が生まれました。養護学校3箇所、普通高校、病院を訪れました。

北海道での経験もあり、ファシリテーターの2人の間でほとんど綿密な打ち合わせをせずにワークショップに臨みました。二人のコミュニケーションも即興であり、ノンバーバルですのでもちろんワークショップ中はほぼ会話らしきものはせず、目で会話、表情や空気を読んで、進めていきました。

5施設それぞれにカラーがあって、誰もが個性があり同じものはありません。同じことをやっても全く違う展開になったり、様々な反応があったり、新鮮でした。

ある施設では、「やりた〜い！！」と前に出てきた子がふいっと教室を出て行こうとしてどうしようかと困惑したのですが、ワークショップ終了後、その子から「楽しかった。ありがとう。大好き。」という内容のお手紙を貰いました。本当に嬉しかったです。

大好評だったエアー大縄跳びでは、全身を使った動きに汗だくでしたが、様々なドラマがありました。

ワークショップのプログラムに参加したい気





持ちはあるけど、なかなか参加できず輪から離れてしまう女の子。縄跳びは「やりたい!」と思い切って飛び込んできました。近付こうとすると「やだ!」と離れてしまうその子はその後、握手をしたり、一緒に写真を撮ったり、帰りには「ありがとう!」と声をかけてくれました。

ある男の子は、「縄跳び出来た!!」と喜ぶ姿がありました。エアー縄跳びということで、実際に縄はないのだけれど、子供たちの目線の先には間違いなく縄跳びがあるのが分かりました。

時に、全身全霊で無我夢中で相手に向き合うことは効果的であり、心と心が通い合います。手抜きせず全てを最大限使うような感覚です。日頃、私たちは相手と向き合うときどれだけ本気のコミュニケーションを取っているでしょうか。これくらいと手抜きしてるのでは?日頃の自分を振り返るプログラムでした。

普通高校での反応は、養護学校での反応とは対照的でした。思春期特有の恥じらいやあからさまな「面倒くさい!」という態度。養護学校の小学生と同じ方法というわけにはいきません。少しずつ少しずつ生徒たちの表面を取り壊していく作業でした。数名、養護学校の学生が混じって参加していましたが、逆に積極的で活発。それもまた学生たちにとって新鮮な刺激となったように思います。

最終日に訪れたのは病院でした。闘病中の子供たちとその親御さんたちが対象です。これまでとはまた違います。こんな幼い子たちが病気と闘っているのかと思うと胸を締め付けられる思いでしたが、段々と笑顔になり最後はキャキャキャと無



邪気に笑う子供たちの顔はとても美しく、生きていることの素晴らしさを感じました。

日頃、言葉でのコミュニケーションが多い私たちですが、このノンバーバルコミュニケーションワークショップを通じて、真のコミュニケーションを学びます。ノンバーバルで心を通わせることを知るにより、言葉を使った日常の中でも、言葉と心が一致した真のコミュニケーションを取れる人へ成長できると感じました。



メイミ

漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。

舞台や各種イベント、様々な場面で漫談家・司会者等の活動をする傍ら、都内のデイサービスセンターで介護福祉士として高齢者介護に携わる。特定非営利活動法人笑顔工場を設立し、現在は十数名の若手芸人の参加者を連れて、関東を中心に福祉施設でのお笑いライブを展開。様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。これからの長寿社会に向け、「笑って長生き」という考えを広める為の活動を展開している。アイディアヒューマンサポートアカデミー／カウンセリングスキルベーシック／トップメンタルトレーニング修了。日本アロマセラピー統合医学協会認定心理アロマアドバイザー。クエスト総合研究所認定／クエストアートセラピーメンタルケア・アドバイザー



プログラム概要

in さっぽろ 7月30日(木)

時間	プログラム	写真
15:00～	庄崎隆志さん&メイミさん 手拍子で開始 即興ポーズ	
15:15～	メイミさん 早着替え 準備のダンス ノンミュージックダンス ボディリズムカル	
15:30～	庄崎隆志さん ハイタッチ 即興パフォーマンス エアーボールキャッチ (見えないボールによるコミュニケーション)	
15:45～	庄崎隆志さん&メイミさん 手ぬぐいを使ったパフォーマンス ミラーリング (相手の動きの真似をする)	
16:00	庄崎隆志さん&メイミさん ハイタッチで終了 【参加者合計57名】	

参加者の感想

in さっぽろ 7月30日(木)

ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in さっぽろに参加して

NPO法人自立支援センター歩歩路

児童福祉サービス I i ~

児童発達支援管理責任者 岡島 あかね

今回は当事業所の子どもたちと参加させて頂きました。

いつもと違う空間だったため、いつもは元気な子どもたちも緊張があり、不安を訴える子どももいましたが、ワークショップが始まりメイミさんの手話での自己紹介が始まると、「どうしてお話がないの?」と疑問を持ち不思議そうにしながらも、親しみのある笑顔や、早着替えなどの楽しい演出にどんどん興味が惹きつけられ、子どもたちの表情も徐々にゆるんでいく様子があり、私もわくわくしながら拝見させて頂きました。

庄崎さんのパフォーマンスはとても楽しい動きが多く、私を含め自然と体が動いている子どもたちの姿に、とても楽しい気持ちになりました。参加者全員やチームでの一体感のある動きが楽しめたり、自由に表現できるような誘導をして頂いた事で、見ている参加者側も主役になれる場面があり、一緒にステージ作りに参加させて頂いている一員となれた気持ちになりました。

また、参加者ひとりひとりとコミュニケーションを図って頂く場面では、様子を見守る参加者も、見ているだけで展開に期待が膨らむパフォーマンスの幅の広さにとても驚きました。

子どもたちもどんどんと気持ちが引き出され、庄崎さんと手を繋いだ子はブンブンと大きく腕を一緒に振ってみたり、それに合わせての動きや、予想のできなかった動きになるなどして、笑い声の絶えない空間がとても楽しかったです。

動きの中では実際には見えていないボールが庄崎さんからの表現で、大きさ・速さ・高さなどの変化が見えているように感じる事ができ、惹きつけられました。

今回のワークショップを通して、普段私がコミュニケーションのツールとして用いる「ことば」ではなく、動きで伝わる表現方法を学ばせて頂く事ができました。

相手とコミュニケーションを図る際には、普段何気なく使っている表情や表現が、とても重要な表現方法の一つだという事を改めて感じさせて頂きましたし、ことばの他にもツールを必要とされているお子さんとの関わりの中に用いながら、嬉しい気持ち、楽しい気持ちをはじめ、悲しい・悔しいなどの様々な感情と一緒に共有していけたらと感じました。

体の表現だけで気持ちが引き出される不思議さも感じながら、体や顔の動きを通して相手の気持ちを探ろうとできたり、知る事ができ共感できた経験はとても貴重な体験となりました。とても楽しく充実した時間をありがとうございました。

プログラム概要

in さっぽろ 7月31日(木)

時間	プログラム	写真
13:00～	開演の挨拶 ハイタッチ・握手で開始 手拍子 準備体操	
13:25～	メイミさん 早着替え ミラーリング 手足を使ったリズム	
13:55～	庄崎隆志さん 指の動きを体で再現 わかめ、こんぶを体で表現 グループワーク (みんなでダンスをつくろう)	
14:20～	休憩	
14:35～	6グループ創作ダンスの発表 ①タッピーズ②ウサギ ③クマさん(あぐりぱ〜く) ④ぷ〜さん⑤ふなっしー ⑥スター☆	
14:55～	庄崎隆志さん チェロマイム 「うみのせかい」合唱 即興パフォーマンス(波〜水中)	
15:05～	庄崎隆志さん&メイミさん 人魚姫登場 閉会の挨拶	
15:15	終了 【参加者合計59名】	

参加者の感想

in さっぽろ 7月31日(木)

ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in さっぽろに参加して

NPO法人自立支援センター 歩歩路

就労継続事業所 はまなす

責任者 藤井 麻衣

2015年7月31日(金曜日)に札幌市東区民センターで行なわれた「ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in さっぽろ」に参加させていただきました。

ファシリテーターとして俳優・演出家である庄崎隆志さんと介護福祉士でありながら漫談家のメイミさんのお二人が進行を務めてくださいました。さまざまな施設の利用者や支援員、ほか多くの方が来られ、広いホールを円で囲むように座っていました。これからプログラムが始まるようとしているホールのその中央に庄崎さんとメイミさんがあらわれ、皆さんが注目して静まり返っている中、一言も話さず身振り手振りで何かを表現してくれました。唐突に始まった静かな行動に利用者や私たちは最初驚きと戸惑いを感じました。「この人は一体何をしているのだろうか?」という思いがあったからです。しかし、庄崎さんとメイミさんが面白おかしく身体を動かして何かを伝えようとしている姿を見て私たちも段々と興味を持ち笑顔になっていきました。そしてそれは「自己紹介」と「挨拶」だったことがわかり、理解できたことでますます楽しくなってもっと理解したいという気持ちになりました。こうして始まってから数分で会場の皆が笑顔になっていきました。その後は二人の動きをまねしたり、言葉を使わずジェスチャーで指示された動きを自分なりに表現したり、グループを作ってダンスを考え発表してみたりと私たちも表現する時間もありました。言葉を使わず自分の身体だけで誰かに伝える機会というのはなかなか無いので、わかるように伝えるという難しさを実感しました。しかしその分、相手に理解してもらえたときの嬉しさや喜びは大きなものでした。

このような貴重な時間を経験させていただいて、伝える側も伝えられる側も「相手と向き合う」ことは一緒だと改めて感じました。自分のことを伝えたいのに伝わらない、どうやったら相手にわかってもらえるだろうと逆の立場になって考えること、この人は何を言いたいんだろう、どうしたらわかるのだろうという相手を理解しようという気持ち、両方ともコミュニケーションにおいては必要不可欠なものだと改めて感じました。

言葉だけでは伝わり切れていないところを理解することの重要性に、日頃の支援で利用者の気持ちの表現を見逃していることはなかったか振り返る良い機会になりました。これからも「じっくりと相手と向き合いながら」支援していけるよう心がけたいと思います。

貴重な体験有難うございました。

プログラム概要

in ふくしま 9月17日(木)

会場	時間	プログラム	写真
福島県立須賀川養護学校郡山分校	10:00 ～	ワークショップ開始・挨拶 庄崎隆志さん&メイミさん 手拍子・即興パフォーマンス	
	10:10 ～	メイミさん 早着替え 「かがみ」をテーマに即興ポーズ ボディリズムミカル	
	10:25 ～	庄崎隆志さん カメラパフォーマンス	
	10:45 ～	庄崎隆志さん&メイミさん ミラーリング&エアークッチボール 記念品贈呈	
	10:55	閉会 【参加者合計35名】	

プログラム概要

in ふくしま 9月17日(木)

会場	時間	プログラム	写真
福島県立須賀川養護学校	13:00 ～	ワークショップ開始 <u>庄崎隆志さん&メイミさん</u> 手拍子・即興パフォーマンス	
	13:10 ～	<u>メイミさん</u> 早着替え 「かがみ」をテーマに即興ポーズ	
	13:25 ～	<u>庄崎隆志さん</u> なわとびパフォーマンス	
	13:45 ～ 13:55	<u>庄崎隆志さん&メイミさん</u> 肩たたき（輪になって） 記念品贈呈 閉会 【参加者合計27名】	

参加者の感想

in ふくしま 9月17日(木)

9月17日(木) ノンバーバルワークショップ 須賀川養護学校分校 参加者の感想
一人でみんなの前に出るのは、少し恥ずかしかったけど、楽しくできたので良かったです。カメラ男から写真が出てきたのには驚きました。体をいろいろ動かすと、言葉で話さなくても伝えたいことが表現できるしわかるのすごいなと思いました。

(中学部3年 藤島弘人)

9月17日(木) ノンバーバルワークショップ 須賀川養護学校 参加者の感想

【参加した小学部の教師の声】

○話し言葉を使わずに自分を表現する、人とコミュニケーションをとるというのは、大人でも難しい。障がいがあって人よりも表現が苦手という子どもにこそ大事な活動だと思います。

○音声言語を使わない(使えない)環境に置かれたことで、日頃子どもたちへの指示が音声に頼ったものであることに気づかされた。「見て」状況を読み取ったり、判断したりする力を育てることを心がけていきたい。

【参加した小学部児童の声】

○「きてくれてありがとう。」

○「めいみさん しょうざきさん とってもたのしかった スカートのおきがえびっくりしたよ。またきてね。」

【参加した中学部教師の声】

○言葉を用いず、動きだけで伝え合うことは難しいかと思いましたが、わかりやすい部分も多く楽しみながら参加することができました。

○ジェスチャーなどで表現したり、みんなで楽しく活動できました。普段いかに音声に頼っているのわかりました。音声ではない形での伝え方が合っている児童生徒もいるので今後の指導の参考になりました。多くの学校で開催していただけると理解が広がっていくと思います。

【参加した中学部生徒の声】

「ぼくは エアーなわとびが楽しかったです。またきてください。」

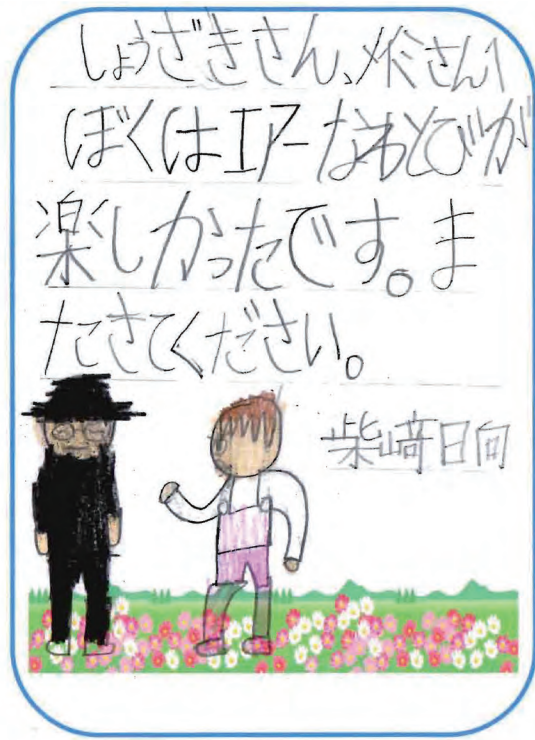
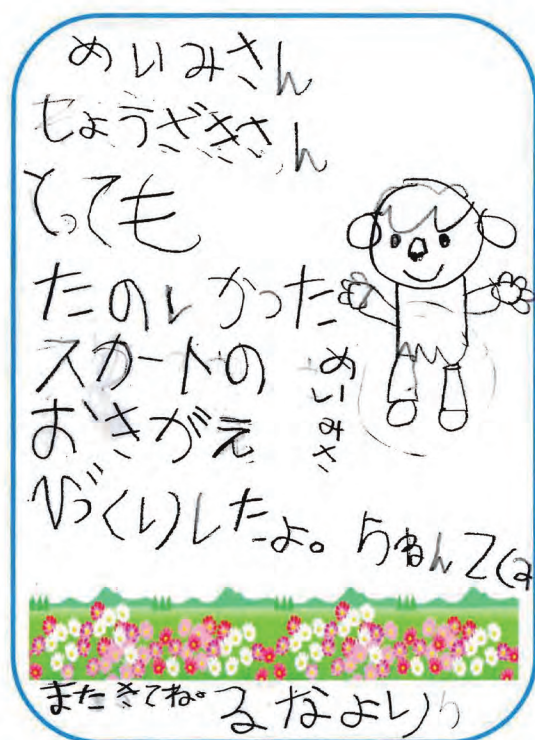
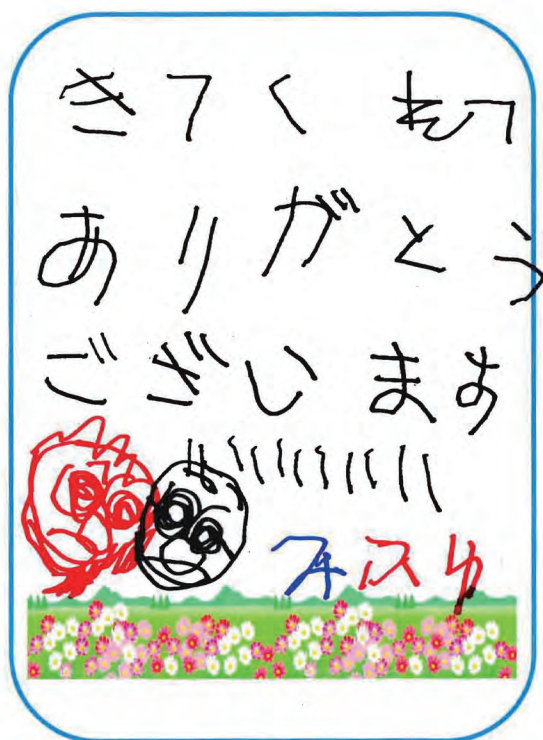
「てをたっちして たのしかあったです。」「はじめは きんちょうしたけど かがみやなわとびがたのしかったです。メイミさんのはやきがえがすごかったです。ありがとうございました。」

児童生徒の感想イラストもありますのでそちらもご覧ください。

参加者の感想

in ふくしま 9月17日(木)

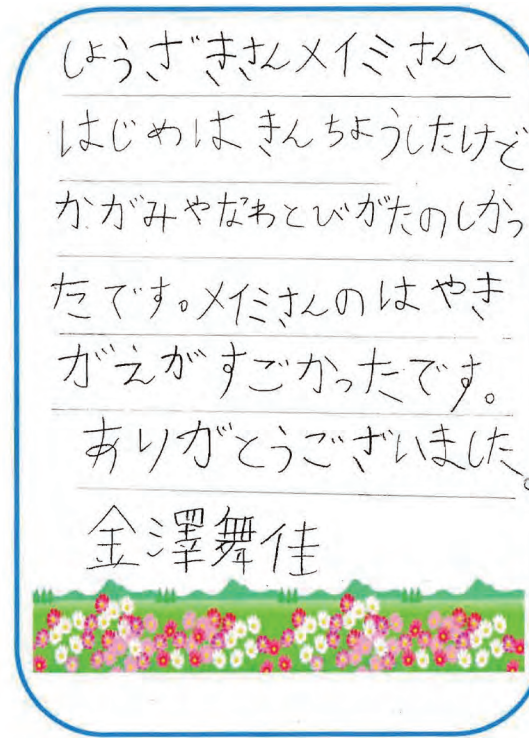
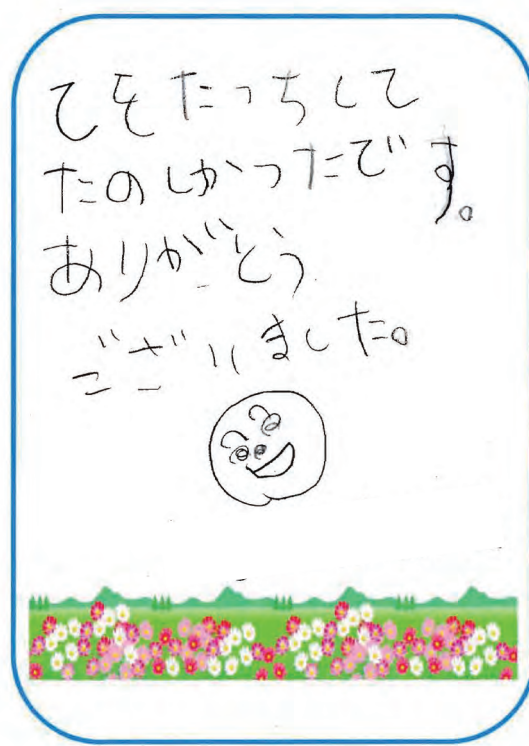
須賀川養護学校児童生徒の感想イラスト



参加者の感想

in ふくしま 9月17日(木)

須賀川養護学校児童生徒の感想イラスト



プログラム概要

in ふくしま 9月18日(金)

会場	時間	プログラム	写真
福島県立いわき養護学校	10:35 ～	ワークショップ開始 日産労連高倉会長挨拶	
	10:40 ～	メイミさん ボディリズムミカル 「かがみ」をテーマに即興ポーズ	
	10:55 ～	庄崎隆志さん カメラパフォーマンス 指運動パフォーマンス	
	11:05 ～ 11:30	庄崎隆志さん&メイミさん なわとびパフォーマンス 記念品贈呈 閉会 【参加者合計107名】	

プログラム概要

in ふくしま 9月18日(金)

会場	時間	プログラム	写真
福島県立いわき養護学校くぼた校／福島県立勿来高等学校	13:15 ～	ワークショップ開始・挨拶 <u>庄崎隆志さん&メイミさん</u> 手振り挨拶	
	13:30 ～	<u>メイミさん</u> 早着替え 「自由に動く」オリジナルダンス	
	13:55 ～	<u>庄崎隆志さん</u> カメラパフォーマンス	
	14:10 ～	休憩	
	14:15 ～	グループワーク (グループ名とノンバーバルドラマシアター「四季」の創作)	
	14:55 ～ 15:20	グループ発表 (6グループ) 記念品贈呈 閉会 【参加者合計86名】	

福島県立いわき養護学校

教諭 伊藤 秀之

ワークショップは子どもたちとのタッチから始まりました。庄崎さんとメイミさんが次々に子どもたちとタッチをしていきます。普通にタッチしていたところから徐々に子どもたちのタッチが強い設定に変わり二人のリアクションが大きくなってくると子どもたちは興味津々。自分もタッチしたいと席を立ってタッチをしたがりました。はじめは何が始まるのだろうと良く理解できていなかった子どもたちがどんどん引き込まれていきました。

様々なパフォーマンスをしていただきましたが、「かがみ」のパフォーマンスでは前に出た子どもがはじめは何をするのか理解できなかったようです。鏡のように動きを模倣することを一緒に行うことで徐々に理解できるようになり、同じ動きができると「できたよ」と満足げな表情でみんなの方を見ていました。

拍手でだんだん大きくしたり、半分だけ拍手したりする活動でもはじめはまとまっていませんでしたが徐々にまとまってきました。庄崎さんやメイミさんが手を上に上げると拍手の音を大きくすることや右手、左手で鳴らす人を分けるなど子どもたちに分かりやすいように伝えているのを見て、私たちの指導のヒントになるなぁと感じながら一緒に参加させていただきました。そのほか、カメラや大縄跳びなど楽しい活動をたくさん行っていただきました。

子どもたちからは、「握手してもらった。」「楽しかった。」「みんなで踊った。」「みんなで縄跳びした。」などの感想が聞かれました。また、クリアファイルやフェイスタオルを一人一人に、サッカーボールを3個もいただきありがとうございました。サッカーボールにつきましては子どもたちが早速蹴って遊んでいます。

最後になりますが、このような機会を設けていただきました日産労連の高倉会長をはじめ、ゆうらいふ21のみなさま、ナイスハート基金のみなさまに感謝申し上げます。

福島県立いわき養護学校くぼた校

教諭 古川 王将

県立いわき養護学校くぼた校は今年度、県立勿来高等学校内に開校した、県内初の特別支援学校高等部の分校です。今回のワークショップは、両校の生徒が混合グループを作り一緒に活動する形で行われました。

4月の開校以来、日常の生活やボランティア活動など様々な場面で生徒同士が共に活動することがたびたびあり、お互いの学校や生徒に対する理解が進んできています。しかし今回のように、本校の生徒が一人一人班に分かれ、勿来高校生の中に入って長い時間活動するといった経験はなかったので、始まるまでは私達くぼた校の教員も、高校の先生方も生徒がどのようなかわりができるのか、心配な気持ちで準備に当たっていました。

しかし、ワークショップが始まると、もちろんみんなの前で表現することを恥ずかしがる生徒もいましたが、庄崎さんとメイミさんの巧みな進行で、次第に全員がノンバーバルコミュニケーションの世界に引き寄せられ、学校の違いや、障がいの有無を超えた一つの集団として活動を楽しむことができました。最後のグループ発表では、ボランティアの方々の協力によって、メンバーそれぞれの個性を生かすような動きを創り、自然な笑顔で発表できたことが印象的でした。

この様子を見て、改めて『お互いをわかり合うことで、障がいの有無にかかわらず、社会で共に生活することができる』ことを確信しました。くぼた校は今年度開校したばかりですが、今後、福島県がめざす「地域で共に学び、共に生きる教育」の実現に向け努力していきます。

最後に参加した生徒からの感想の一部を掲載します。

- ・言葉を使わずに、身振り手振りで伝えることがとても難しかった。
- ・言葉がなくてもゼスチャーで伝え合うことができることが分かった。
- ・カメラの動きが面白かった。絵を描いてもらいありがとうございました。
- ・伝えるという気持ちが大切なんだと思った。
- ・発表までの話し合いが楽しかった。

参加者の感想 in ふくしま 9月18日（金）

参加者の感想 in ふくしま 9月18日（金）

いわき養護学校くぼた校生徒の感想

庄崎隆志さん、メニさん
いろいろおしえてくれ、ありがとうございました。
ダンスのさいに「ポーズ」をきめるのが
むずかしかったです。
ななこっこのみんなさんと、いっしょにがん
ばりました。また、また、いっしょにおしゃ
べりした。男の人とマジックでいっしょにや
りました。ほんとにみんな、ありがとうございました。
ボールもありがとうございました。
うれしかったです。

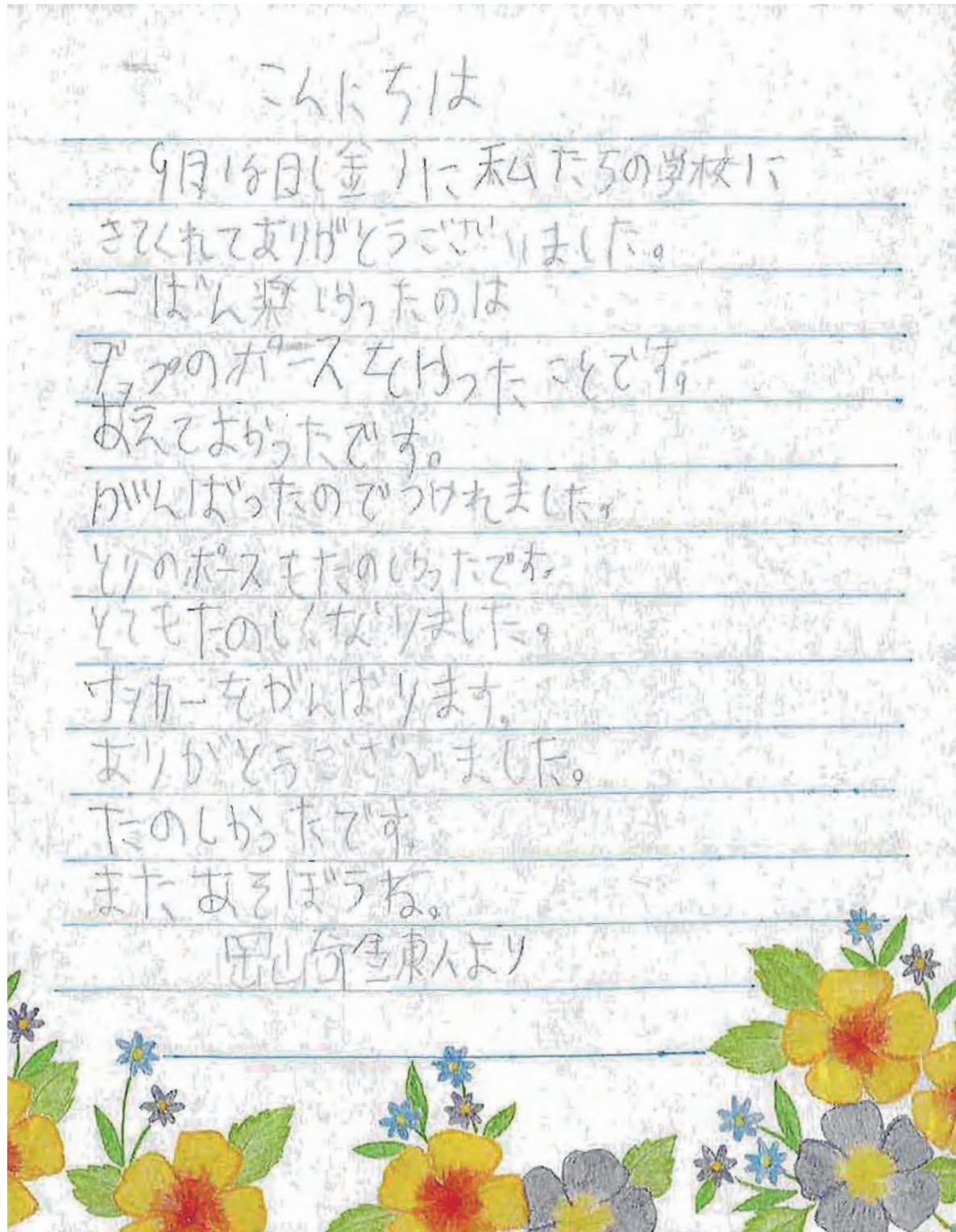
安島 裕

庄崎隆志さん、メニさん
いろいろおしえてくれ、ありがとうございました。
ダンスのさいに「ポーズ」をきめるのが
むずかしかったです。
ななこっこのみんなさんと、いっしょにがん
ばりました。また、また、いっしょにおしゃ
べりした。男の人とマジックでいっしょにや
りました。ほんとにみんな、ありがとうございました。
ボールもありがとうございました。
うれしかったです。

安島 裕



いわき養護学校くぼた校生徒の感想



参加者の感想

in ふくしま 9月18日(金)

いわき養護学校くぼた校生徒の感想

庄山 隆志 さん メイさん

ボランティアの方や勿来 高校のみなさんと

パフォーマンスができたのかたのしかたです。

2人の方のパフォーマンスがおもしろかったです。

ほくたちは、とてもかんしゃしています。

おもしろいの、ほくたちにすばらしい

パフォーマンスをありがとうございました。

これから、また、すばらしいパフォーマンスを

見せて下さい。ありがとうございました。

すばらしいプレゼントをありがとうございました。

大切に使用させていただきます。

伊左衛門 祐斗



いわき養護学校くぼた校生徒の感想

こんにちは。
9月14日(金)にわたしたちのかっこように
きてくれてありがとうごさいました。
ぬーべのホースをやったことか
たのしかったです。
サッカーをがんばります
たのしかったです。
タニスもたのしかったです。ありがとう
ごさました。長ス保ッカツ



参加者の感想

in ふくしま 9月18日(金)

いわき養護学校くぼた校一同写真

ありがとうございました。



いわきろうがころうくぼた不來一校

プログラム概要

in ふくしま 9月19日(土)

会場	時間	プログラム	写真
福島県立医科大学附属病院	14:00 ~	ワークショップ開始・紹介 <u>庄崎隆志さん&メイミさん</u> 手振り挨拶	
	14:10 ~	<u>メイミさん</u> 早着替え ジャンケンパフォーマンス 「かがみ」をテーマに即興ポーズ	
	14:25 ~	<u>庄崎隆志さん</u> カメラパフォーマンス	
	14:35 ~	<u>庄崎隆志さん&メイミさん</u> 身体パフォーマンス	
	14:55	記念品贈呈 閉会 【参加者合計33名】	

ふくしまでの取組から～特別支援学校の現状

福島県立須賀川養護学校

学校長 鹿目 敦子

震災から4年経ちますが、除染作業や施設等の環境の整備等、福島はいまだ復興の途上です。これまで多くの支援を頂き、新しい出会い、心を動かす活動を通して子どもたちの笑顔が増え、子どもたちの新しい姿を発見することができました。

東日本大震災直後、福島の子どもたちは外で活動する機会が減り、また障がい児に対する支援は行き届かない状況が続きました。このような環境の中、障がい児とその家族の精神的負担は大きく、支援の必要性を感じていました。

そんな中、平成24年度から日産労連、日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」、公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金の協働で行われた、東日本大震災後の福島の障がいのある子どもたちへの取組、「ふくしまっこキャンプ」に参加する機会をいただきました。普段体験できない新しいことや、わくわくドキドキするたくさんの企画が用意されているキャンプでした。「ふくしま」を応援してくれる方たちがたくさんいることを肌で感じ、人と人とのつながりのあたたかさを知り、自分たちもまたそのつながりの輪の一つであることを実感することができたこの活動は、何よりも得がたいものとなりました。皆様とのつながりは、ここから始まりました。

今年度は、9月17日（木）から19日（土）の3日間、福島県立須賀川養護学校郡山分校、須賀川養護学校、いわき養護学校、いわき養護学校くぼた校、福島県立医科大学附属病院の各会場にて「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ」が開催されました。

今回のノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップのねらいは、音声や書き言葉を使わずに自分の意思を伝えたり、相手の気持ちを感じ取ろうとしたりすることとあります。家庭においてももちろん、今の子どもたちの周りには、生まれたときからたくさんの音や映像など言葉があふれています。知りたいことは、すぐわかる、教えてもらえる環境です。

その中での今回の活動は、音が消え、目の前の相手の動きを見ることから始まりました。初めての雰囲気戸惑いながらも子どもたちの目は、庄崎さんとメイミさんが伝えようとする何かを感じ取ろうと全身で見ている様子が伝わってきました。

コミュニケーションをとることに苦手意識をもち、人と関わり合う経験が少ない本校の児童生徒にとって、全身で伝え合う経験は新しい刺激となりました。一緒にいる教師たちは、このワークショップが始まるまで、知らない人が居るいつもと雰囲気が違う環境の中で、子どもたちは大丈夫なのだろうか、ついて行けるのだろうかと何が起こるか見通しがもて

ふくしまでの取組から～特別支援学校の現状

ずに不安を感じていました。

ところが、普段前に出て何かをすることが苦手な生徒が自ら出て行き、なわとびのパフォーマンスをし、自信に満ちた表情を見せてくれました。また、転げんばかりに大きな声で笑ったり、初めての人とタッチしたりと、今までにない様々な表情を見せてくれました。

ファシリテーターの方々が示すもの一つ一つがとても自由であり、反応に対して全てを受け入れて返してくれる、そんなやりとりの中で子どもたちは、自然に二人のファシリテーターを受け入れていこうとしていました。

一方で、教師たちは、「言葉を使わずにコミュニケーションをするという体験はあまりないので、戸惑いがありました。」「子どもたちに言葉をかけていいものか、手伝ってよいのか迷いました。」等の感想を述べています。戸惑って堅くなっていたのは、教師である大人たちだったという姿が見えてきました。

しかし、活動していく中で子どもたちが見せていく変化に、「子どもたちは、不安を感じながらも参加したい、チャレンジしたいという気持ちがある。自分なりに気持ちを調整して取り組もうとしている様子が見られてうれしく感じました。」や「普段、いかに音声に頼って指示を出していたのか振り返りました。」と、言葉に頼るのではなく表現すること、見て判断してわかろうとする、人と人とのつながりの大切さを教えられたのです。

また、保護者や交流校と共に参加した郡山分校では、保護者の方から「久しぶりに思い切り笑えた。」という感想が聞かれました。常日頃から子どものこと、これから先のことを思い、不安になりがちな心をほっとあたたかな空気が包む素敵なひとときになったようです。子どもと家族、そして学校、地域が笑顔でつながった瞬間でした。

さらに、今年度開校したばかりのくぼた校の生徒たちは、高校生との交流の中での実施でしたが、言葉を使わない分、得意のパフォーマンスで思う存分思いを伝えることができたようです。

今回のワークショップの目的である「地域の中で支えあうつながりを強くすること」の人と人とがつながっていくとはどういうことかが見えた活動でした。これは、本県の特別支援教育が目指す「地域で共に学び、共に生きる教育」とも重なるものです。

今回のワークショップは、福島の子どもたちに多くの笑顔を与えていただきました。この笑顔と元気が、子どもたちを強く成長させ、子どもたち自らも地域の一員として、地域の中でがんばっていく力になると思います。

皆様方とのこの出会いに心より感謝いたします。これからもこの絆（つながり）を大切にしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。皆様の益々のご活躍をお祈りしております。

2015年9月19日 福島民友新聞

福島民友

2015年(平成27年)9月19日(土曜日)

HOMETOWN ネット59

言葉、使わず伝える？

言葉を使わず、表情や身ぶり手ぶりの表現でコミュニケーションを図る「ノンバーバル・コミュニケーション」のワークショップが17、19日、県内の養護学校などで開かれており、参加した子どもたちが言葉を使わないコミュニケーションの手法に理解を深めた。日産労連、日産労連NPOセンター「ゆづらいふ21」、国際障害者年記念ナイスハート基金の主催。

ノンバーバル・コミュニケーションについて紹介する庄崎さん(左)とメイさん(右)



郡山でワークショップ

ノンバーバル・コミュニケーションは手話と異なり表情や振る舞いなどで感情などを伝える。ワークショップでは、自分らしい伝え方などを学んでもらう。17日は郡山市の須賀川養護学校郡山分校などで開かれた。俳優・演出家の庄崎隆志さんと漫談家・介護福祉士のメイさんがノンバーバル・コミュニケーションを面白おかしく紹介。参加者は、投げる、感情を表現する、相手の動きをまねるといった動作で、自分なりのコミュニケーションの在り方を探っていた。

2015年9月23日 福島民友新聞

いわき養護学校くぼた校で講座

言葉使わず思い表現

いわき市勿来町の勿来高内に開校した、いわき養護学校くぼた校で18日、言葉を使わず、表情や身ぶり手ぶりでコミュニケーションを図る「ノンバーバル・コミュニケーション」のワークショップが開かれた。参加した生徒が、言葉を使わ



言葉を使わずに思いや考えを表現する生徒ら

隆志さんと、漫談家・介護福祉士のメイさんが講師を務め、ノンバーバル・コミュニケーションについてパフォーマンスを披露しながら紹介した。

生徒はグループに分かれ、四季やグループ内で決めた共通のテーマを、言葉を使わずに動作で表現していた。

2015年9月25日いわき民報

き民報

(夕刊)

平成27年(2015年)9月25日(金曜日)

第21118号 (14)



生徒が言葉使わず意思疎通

ノンバーバル・コミュニケーション ワーク 勿来高、くぼた校が交流

「ノンバーバル・コミュニケーションふくしま」
コミュニケーションワーク(日産労連NPOセン

ター「ゆうらいふ」など主催)が18日、いわき養護学校の高等部分校「いわき養護学校くぼた校」を併設する勿来高で開かれた。

同事業は、同NPOの社会貢献活動の一環として、日産労連、国際障害者年記念ナイスハート基金と協働で開催。17、19の3日間、本県の養護学校や大学病院などを訪れ、地域の中で障がいのある子どもたちを支え合う心をはぐくむと、ノンバーバル(非言語)のワークショップを行った。

メイミさん(左)からノンバーバル・コミュニケーションを学ぶ生徒たち

勿来高の1年生59人とくぼた校の7人が参加した。「office風の器」を主宰する俳優で演出家の庄崎隆志さん、介護福祉士の資格を持つ漫談家のメイミNPO法人

笑顔工場理事長が声を出さず、身ぶり手ぶりで進行。2人のパフォーマンスのあと、生徒たちは6班に分かれ、四季をテーマにしたグループワークを行った。

顔や手足を動かすだけでは相手と意思疎通できず、思わず声を出してしまう生徒も。悪戦苦闘しながらも、2人のパフォーマンスを参考にしながら、春、夏、秋、冬を表現し、クラスメートやくぼた校の生徒たちの笑顔を誘った。

最後にグループごとに垣根を取り払い、両校の生徒たちはワークショップを通して、交流を深めていた。

2015年9月19日共同通信配信 (Yahoo ニュース)

言葉、使わず伝える？ 郡山などで「ワークショップ」

言葉を使わず、表情や身ぶり手ぶりの表現でコミュニケーションを図る「ノンバーバル・コミュニケーション」のワークショップが17～19日、県内の養護学校などで開かれており、参加した子どもたちが言葉を使わないコミュニケーションの手法に理解を深めた。日産労連、日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」、国際障害者年記念ナイスハート基金の主催。

ノンバーバル・コミュニケーションは手話と異なり表情や振る舞いなどで感情などを伝える。ワークショップでは、自分らしい伝え方などを学んでもらう。

17日は郡山市の須賀川養護学校郡山分校などで開かれた。俳優・演出家の庄崎隆志さんと漫談家・介護福祉士のメイミさんがノンバーバル・コミュニケーションを面白おかしく紹介。参加者は、投げる、感情を表現する、相手の動きをまねるといった動作で、自分なりのコミュニケーションの在り方を探っていた。



ノンバーバル・コミュニケーションについて紹介する庄崎さん(右)とメイミさん

特定寄付金協力謝礼

<実施事業の概要>

東日本大震災後の不安定な環境により、福島の子どもたちは外で活動する機会が減り、とりわけ障害のある子どもたちに対する支援は行き届かない状況が続いています。このような環境の中、障害児とその家族の精神的負担は大きいものだと考えられ、支援の必要性を強く感じています。

平成24年度より実施した、福島の障害のある子どもと家族のための「ふくしまっ子キャンプ」では、3年次にわたり多くのご家族とボランティアの参加を得て、好評のうちに実施することができました。また、この活動に対して、昨年度には募金総額 1,827,550 円(12 団体 /16 個人) のご寄付をいただき、支えていただきました。

今年度は福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校へ出向き、ワークショップを行うことにより、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、実施概要の通りの事業を実施いたしました。

みなさまに募金を呼びかけました「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in ふくしま」につきまして、多くの個人、団体のみなさまからご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

当日は日産労連のボランティアにご協力をいただきながら、たくさんの子どもたちと過ごすことができました。

<募金総額>

247,320 円 (6 団体 /13 個人)

戸井田和彦様、島貫啓様、(特非) 自立支援センター歩歩路様、澗口良一様、びあわーく様、ねむの木苑様、鈴木廣子様、合田雅一 様、(福) 高崎福祉会ウエルク高崎様、(特非) 翠の家様、(特非) 高砂ワークハウスつばさ様、(株) 全国儀式サービス様、やまびこ様、米田佐知子様、(福) 安芸の郷様、鹿目敦子様、佐藤由弘様、赤平忍様、(福) 北九州市福祉事業団ひよりの丘様

編集後記

ノンバーバル（非言語）が主役のこのワークショップを、言語を中心とした報告書で何を伝えるのか、いや何が伝わるのか？と思いながら編集を進めていきました。何故なら、ワークショップのはじまりの静寂な雰囲気や、ファシリテーターのお二人がそれを和らげていく所作、それに呼応していく参加者や関係者の方々、それら全てがその場にいた人達だけが体感出来る特権なのだと、少々大げさに考えていたからです。

しかし、その場の雰囲気は、そこに携わって頂いた方々の様々な想いが結集して成立していたのだと気づきました。

何が始まるか不安や好奇心で溢れていたり、参加者の方々の反応を想像したり、コミュニケーションというものを改めて考えるきっかけになったり、はたまた無心でワークショップに参加して、台本のない1対1のコミュニケーションを楽しんでくださったり、普段と異なる表情に感嘆したり、心の有り様は様々であったと思います。

この想いの結集が、報告書になったのだと感じています。何を伝えるのか、何が伝わるのか、それよりも何を伝えたいのか？それこそ日頃言葉を頼りに生活している私たちの暮らしの中に、ノンバーバルという非言語が発揮できる場があるのでないかと信じて、このワークショップに関わってくださった全ての関係者の皆様に御礼申し上げます。

（公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金 高倉 和樹）

平成 27 年度ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ 実施報告書

平成 27 年 10 月発行

発行元 日産労連 / NP0 法人日産労連 NP0 センター「ゆうらいふ 21」
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

